熊日1971.10.27

革新系が参加中止

水俣市民公害対策協 署名運動、曲り角に

潜在水俣病患者の発掘がすすむ水俣市で、水俣病の早期解決を求める署名運動が、超党派的な形で始まっていたが、革新系がこの運動からおりたため、運動は微妙な曲がりかどに立たされている。

この署名運動の母体は、水俣市民公害対策協議会（発起人代表池松信夫・新日本化学取締役、市監査委員）で、発起人には渡辺県議（保守系無所属）や今村市教育委員など中間派や、革新系の「水俣をよくする会」の田上会長、市農民会の田中会長らも名を連ね、運動目標も「新潟水俣病も解決をみた今日、患者の経済的、精神的安定を図るために、このさいチッソも早期解決に誠意をもって処置されるよう関係各方面に強く働きかけるとともに、患者の治療や授産施設などで国、県、市に働きかける」とうたい、超党派的に署名運動をすすめていた。

ところが最近になって「水俣をよくする会」と「市農民会」が、この運動に参加しないことを決め、署名運動も取りやめた。これについて「水俣をよくする会」では「水俣病問題は早く解決しさえすればよいというものではなく、スジを通して解決しなければ、三十四年当時のあやまちを再び繰り返す」と言っているが、この裏には、発起人の一部にチッソ新労に近い人がおり、新労のバックには会社がいるという見方があったといわれている。

これに対し、対策協議会の渡辺県議はチッソとの関係を否定、あくまでも独自な運動だと言っているが、保守、革新の対立が激しい同市では、超党派的な運動は成立しにくいことを示している。